

医学教育者のためのワークショップ*1

畑 尾 正 彦*2

はじめに

シドニーのニューサウスウェルス大学内に設置されたWHO西太平洋地域RTTC(Regional Teacher Training Center)のTTWS(Teacher Training Workshop)に、日本からはじめて、牛場大蔵、日野原重明、館 正知の3先生が参加された翌年、1974年に第1回「医学教育者のためのワークショップ」が、裾野市の富士教育研修所で行われた。爾来、この全国規模のTTWSは毎年1回行われ、1993年12月までで20回となった。

また、この間に、「医学教育開発ワークショップ」が3回開かれている。

1. 医学教育者のためのワークショップ

第1回から第8回までは『医学教育白書1982年版』に、第9回から第12回までは同1986年版に掲載されているが、それらを含め、その後の第13回～第20回までの開催年月日、主催、後援・協力、主題、参加者数、講師(タスクフォース、コンサルタント)数を表1に示す。

1) 開催場所

開催場所は第1回から第20回までを通じて同じく、静岡県裾野市にある富士教育研修所である。

2) 開催期間

当初、ワークショップの開催期間は7泊8日であったが、その後6泊7日となり、さらに参加者がそれぞれの機関を空ける日数を少しでも短くすべく、スケジュールをなるべくコンパクトにして、

第8回からは5泊6日となった。開始前日には、開催場所である富士教育研修所にディレクター、タスクフォースおよび事務局メンバーが集まり、綿密に仕上げの打ち合わせを行っている。

3) 主催・協力・後援

このワークショップは厚生省と文部省科研費総合研究班との主催ではじまったが、第6回から厚生省・文部省主催、日本医学教育学会の主として人的協力、医学教育振興財団の主として財政的協力、WHOの後援という形が定着し、今日にいたっている。第1回と第2回はシドニーのRTTCから2名ずつのコンサルタントが全期間を通じて参加・指導したが、その後は時に短期参加があるだけで、WHOはもっぱら精神的な後援となっている。

4) 主 題

ワークショップの主題として、第1回から教育の枠組となる「カリキュラム・プランニング」が取り上げられたが、第4回と第5回は「教育評価」、第6回と第7回は「教育方法」というようにカリキュラムの1つの要素に力点を置かれた。第10回～第12回では「組織としての教育機能の開発」を主題として、個々の教育者の教育能力の向上とともに、改善実行上の組織的能力の開発が目指された。しかし、いずれの場合にも、重点の置き方が変わるだけで、期間中に行われる内容そのものは、それほど大きく変わることはなかった。第13回以降は教育活動の基本を律するものとして、ふたたび「カリキュラム・プランニング」が主題とされている。

5) ねらいと目標

上記の主題のもとに行われるワークショップのねらいと目標は、毎年春に行われる最初の準備会議で、ディレクター、タスクフォースおよび事務

*1 Teacher Training Workshop for Medical Teacher in Japan

キーワード：ティーチャートレーニング、ワークショップ、臨床研修指定病院指導医、大学教員、カリキュラム・プランニング

*2 Masahiko HATAO 日本赤十字武蔵野女子短期大学

表 1. 医学教育者のためのワークショップ

回	開催年月日	主 催	協 力・後 援	主 題	参加者数	講師数	
						タスク フォース	コンサ ルタント
1	1974.12.14～21.	厚生省・文部省 科研費総合研究班	WHO	カリキュラム・プランニング	20	5	7
2	1976.12.15～22.	厚生省・文部省 科研費総合研究班	WHO	カリキュラム・プランニング	20	5	8
3	1977.1.10～17.	厚生省・文部省 科研費総合研究班	WHO	カリキュラム・プランニング	40	9	1
4	1977.12.18～24.	厚生省	WHO	教育評価	28	5	2
5	1978.12.4～11.	厚生省	WHO	教育評価	28	5	3
6	1979.12.15～21.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	教授方法	28	5	5
7	1980.12.8～14.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	教授方法	30	6	3
8	1981.12.13～18.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	7	2
9	1982.12.12～17.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	2
10	1983.12.11～16.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	組織としての教育機能の開発	40	6	4
11	1984.12.2～7.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	組織としての教育機能の開発	40	6	3
12	1985.12.8～13.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	組織としての教育機能の開発	40	6	2
13	1986.12.7～12.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	2
14	1987.12.6～11.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	2
15	1988.12.4～9.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	2
16	1989.12.3～8.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	2
17	1990.12.2～7.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	1
18	1991.12.8～13.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	1
19	1992.12.6～11.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	1
20	1993.12.10～15.	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団・WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	3

(表の講師数にディレクターは含まれていない)

局の協議によって決められる。第15回まではおおむね「世界の医学教育の動向をみると多方面にわたる改善や試行が図られており、わが国においても医師養成の質的充実が強く求められ、さまざまな努力が重ねられている。このワークショップは、このような改善への努力の一環として、直接学生、研修医をあずかる各医育機関における教育指導の改善充実を図ることを目的としている。そのため、各医育機関において教育指導にあたる教育者の参加を求め、参加各医育機関が直面している問題を素材として、ワークショップ形式により、参加者相互の討議・交流を深め、もって参加者各自の主体的問題解決力、各医育機関における将来の改善努力へ向けての実行力を高めることをねらいとしている」[今回の主題として取り上げているカリキュラム・プランニングは、言うまでもなく医育機関における教育活動の基本を律する最も重要な問題である。優れたカリキュラムを編成するためには教育者が、あらかじめそれぞれの医育機関における教育の目標、方法、教育資源および評価方法を的確に把握する必要があることはいうまでもない。今回のワークショップにおいては、カリキュラム・プランニングを進める上で最も基礎となる諸要素を順次修得し、かつ、実際にカリキュラムの立案を演習することによって、参加者が直面しているカリキュラム上の諸問題を解決する能力の向上を図る。また、この間、医学教育に関する動向や新しい技法についても具体的事例に則して学ぶ]というものであった。

第16回からは、その前段はほぼ同じであるが、後段に「新しい課題に対応する教育技法の開発」というねらいが加わり、「カリキュラム・プランニング、すなわち教育目標の設定、教育方法の設計および評価法の策定に関する方法は教育計画の基本として、例年にならい課題とするが、今回は、これまで観念的には要請されながら、具体化の遅れていた創造性、自発性、倫理、さらには高齢者医療、末期医療などの課題に対する教育技法の開発を加える」となった。

このねらいを受ける形で、各回のワークショップのスケジュールの後半に行われるカリキュラム立案演習のプロジェクト・テーマに、第16回以降は、その趣旨のものが多く取り入れられた。こ

れらを表2に示す。

6) 参加者

参加者の数は、宿泊施設の関係で制限がある。当初20名であったが、その後増員の要望に応じて、宿泊施設を2年以上前に予約することによって、40名と倍増された。

参加者の内訳は各回とも、臨床研修病院の指導医と医科大学（大学医学部）の教員とが半数ずつである。臨床研修病院には厚生省から、大学には文部省から、4～5か月前にワークショップの開催と参加者募集の通知が送られるが、それぞれ毎回とも、約3倍の応募があり、両省がそれぞれの基準で参加者を決定している。

7) 講師

ディレクター（年によって2名のこともある）がワークショップ全体を統括する。

参加者は6～7名のグループに分かれて討議や作業をするが、表1の講師数の欄に示されるタスクフォースが、それぞれのグループの世話にあたる。タスクフォースはそのほかに、ワークショップで展開されるいろいろなセッションでの解説と進行を分担する。

ディレクターとタスクフォースはワークショップの全期間を通じて、参加者と寝食をともにする。

コンサルタントは主に、それぞれの回のテーマに関連した、あるいはその時々新しい話題についての講演を担当する。

2. 医学教育開発ワークショップ

「医学教育者のためのワークショップ」に参加した者の総数は、第20回までで714名となった。その参加経験者を対象として、ほぼ5回ごとに「医学教育開発ワークショップ」が行われている。その概要を表3に示す。

主催・協力・後援は「医学教育者のためのワークショップ」と同様である。参加者はすでにカリキュラム・プランニングの基本的なことは修得しているため、各回とも3泊4日の期間でプロジェクト作業を中心に行われた。

宿泊施設の関係で、参加者は24名に絞られたが、その内訳は各回とも臨床研修病院指導医12名、大学教員12名である。

第1回は参加者が各自の教育実践場におけるカ

表 2. 第13回～第20回医学教育者のためのワークショップ
各回のプロジェクトテーマ

第13回

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 1. 症候診断学……発疹 | 6. 解剖学と臨床……骨学 |
| 2. 症候診断学……黄疸 | 7. 消化器病……消化器癌 |
| 3. 症候学……嘔吐 | 8. 老年精神医学……老年期機能性精神疾患 |
| 4. 行動科学……飲酒 | 9. 膠原病……慢性関節リウマチ |
| 5. 行動科学……喫煙 | 10. 前期研修医のための総合診療コース
……急性細菌感染症 |

第14回

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 神経科学……神経科学入門 | 6. 救急医学……消化管出血 |
| 2. 腫瘍学……転移 | 7. プライマリ・ケア……症候学……黄疸 |
| 3. 腫瘍学……呼吸器系腫瘍 | 8. 成人病……高血圧 |
| 4. 病理学……呼吸器系疾患……肺炎 | 9. 成人病……糖尿病 |
| 5. 総合医学……死の臨床 | 10. 老人病……訪問医療 |

第15回

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 大学院生理学……実験動物学 | 6. 内分泌代謝……糖尿病 |
| 2. 循環器系……動物系疾患 | 7. 内分泌代謝……甲状腺疾患 |
| 3. 循環器系……心不全 | 8. 一般外科……基本的手術手技 |
| 4. 小児医学系……消化器Ⅱ | 9. 循環器系……虚血性心疾患 |
| 5. 消化器系……黄疸 | 10. 循環器系……高血圧 |

第16回

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| 1. 医療総論……成長とライフサイエンス | 7. 健康の保持と増進の医学 |
| 2. 老人科……老人医療 | 8. 医学概論……国際交流・協力 |
| 3. プライマリ・ケア……在宅ケア | 9. 研修医オリエンテーション
……医療経済を考慮した診療 |
| 4. 医学概論……医療における看護 | 10. 医学研究者のためのカリキュラム |
| 5. 医療事故 | |
| 6. プライマリ・ケア……不安の医学 | |

第17回

1. 臨床実習……臨床実習のための総合オリエンテーション
2. 臨床実習……チーム医療
3. 医療現場におけるコミュニケーション……医師と患者のコミュニケーション
4. 臨床社会医学……ストレスと疾患
5. 老年医学……高齢者の QOL
6. 慢性疾患における QOL……慢性腎不全患者における QOL
7. 人間ドック……人間ドックの事後指導
8. 障害者医療……身体障害者のケア
9. 救急医学……大災害に対する救急医療

第18回

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1. 医学概論……末期医療 | 5. 臨床研修……初期研修開始時のオリエンテーション |
| 2. 老年医学……在宅医療 | 6. 基本的診療……がん末期医療 |
| 3. 臨床実習……一般病院における卒前臨床実習
(内科系) | 7. 基本的診療……高齢者の QOL |
| 4. 臨床実習……一般病院における卒前臨床実習
(外科系) | 8. 基本的診療……身体障害者のケア |
| | 9. 周産期医療……出生前診断 |

第19回

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 保健医療論……プライマリ・ケア | 6. 保健医療論……高齢者の QOL |
| 2. 環境保健……廃棄物処理 | 7. 保健医療論……医療経済 |
| 3. 保健医療総論……国際医療協力 | 8. 保健医療論……医療事故 |
| 4. 保健医療論……脳死 | 9. 大学院オリエンテーション……医学研究法 |
| 5. 保健医療論……インフォームド・コンセント | 10. 健康増進医学……健康スポーツ医学 |

第20回

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 医学・医療入門……国際医療協力 | 6. 健康科学……健康医学 |
| 2. 卒後研修入門……医療の倫理 | 7. 感染予防医学……院内感染 |
| 3. 医師患者関係……インフォームド・コンセント | 8. 卒後臨床研修入門……院内感染 |
| 4. 医師患者関係……末期医療 | 9. 臨床研修入門……医療事故 |
| 5. 高齢者医療……高齢者の QOL | 10. 医学研究法……医学研究法 |

表 3. 医学教育開発ワークショップ

回	開催年月日	主 催	協 力	後 援	主 題	開催場所	参加者数	講師数	
								タスク フォース	コンサ ルタント
1	1980.8.23～8.26	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団	WHO	臨床実地教育	富士教育 研修所	24	3	0
2	1986.8.18～8.21	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団	WHO	組織開発	千代田生命 研修センター	24	3	1
3	1992.1.31～2.3	厚生省・文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団	WHO	評価法	富士教育 研修所	24	3	0

表 4. 「医学教育者のためのワークショップ」に関するアンケート集計結果
(第12回～第17回参加者)

1. WS で獲得した知識・技術を利用しておられますか。						
全く利用 していない	ほとんど利用 していない	少しは 利用している	かなり 利用している	十分に 利用している		
1	2	3	4	5		
0	10	92	65	18		
2. WS の資料を利用しておられますか。						
1	2	3	4	5	無	
2	35	87	48	12	1	
3. WS 後、医学教育への関心が変化されましたか。						
意欲を失った	変化なし	少し 意欲がでた	かなり 関心を持った	非常に 熱心になった		
1	2	3	4	5		
1	7	38	107	32		
4. WS 後、所属機関で医学教育の改善に関し、具体的に活動されましたか。						
何も していない	ほとんど していない	少し 活動した	かなり 活動した	大いに 活動した		
1	2	3	4	5	無	
1	29	79	60	15	1	

リキュラムとその問題点を持ちより、お互いの実情の討議によって、よりよいプログラムを持ち帰ることをねらいとしたが、結果として開発ワークショップのテーマは「臨床実地教育」となった。

第2回は組織としての教育機能の開発がテーマとされた。これは「医学教育者のためのワークショップ」でも、すでに主題となったものであるが、開発WS参加者のプロジェクトは、実際面での応用、そのほかでかなり進んだ成果が得られた。

第3回は折しも、大学設置基準の改正(文部省)や臨床実習検討委員会報告(厚生省)に伴い、機関の自己点検・評価や個人の自己評価の必要性が求められていることをふまえて「評価法」がテーマとされた。このテーマは、開発ワークショップの準備段階で行われた参加対象者(第12回～第17回「医学教育者のためのワークショップ」参加者)へのアンケートでも、最も希望の多かったものである。

なお、そのアンケートの回答から、「医学教育者のためのワークショップ」で獲得した知識・技術の利用度、WS 資料の利用度、各自機関における医学教育の改善についての活動状況などに関する集計結果を表 4 に示す。

これら 3 回の「医学教育開発ワークショップ」は、それまでのワークショップのフォローアップとして、参加者がすでに修得した能力をさらに拡充し、かつ応用能力を増強して、わが国に適した医学教育の開発を目的としたものであるが、それと同時に、これからの医学教育に関するワークシ

ョップのあり方についての改善策を探るうえでも意義のあるものであった。

文 献

- 1) 医学教育白書、1982 年版
- 2) 医学教育白書、1986 年版
- 3) 医学教育白書、1990 年版
- 4) 第 13 回～第 20 回「医学教育者のためのワークショップ」記録
- 5) 第 1 回～第 3 回「医学教育開発ワークショップ」記録

* * *